

一 こそあど言葉の使い分けのしかたとしてあてはまるものをえらんで記号で書きましよう。

- ① こ（これ・この・ここ など）（ ）
- ② そ（それ・その・そこ など）（ ）
- ③ あ（あれ・あの・あそこ など）（ ）
- ④ ど（どれ・どの・どこ など）（ ）

ア 聞き手に近いものを指すときに使う。
イ 話し手に近いものを指すときに使う。
ウ はっきりわからないものを指すときに使う。
エ 話し手からも聞き手からも遠いものを指すときに使う。

二次の文の（ ）には、□の字から始まるこそあど言葉が入ります。□につづけて書きましよう。

① コンビニは、（そ）（ ）角を右に曲がったところにあります。

- ② 「荷物は（ど）（ ）におきますか。」
「（こ）（ ）においてください。」
- ③ 大きな木がある。（あ）（ ）で休もう。

③ 次の文の——線部分のこそあと言葉が指している部分を書きぬきましよう。

① 友だちがぼくをよびに来た。そのときぼくは、お中で本を読んでいた。

② へいの上をねこが歩いている。きのうもねこがここを歩いているのを見た。

③ 妹はうさぎのぬいぐるみを持っていて、それが大のお気に入りだ。

④ シュークリームよりもプリンがすきなので、わたしはそっちを食べることにした。